

こども
子供のインターネットバイブル
あんない
案内いたします

おお さかな
ヨナと大きな魚



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: Jonathan Hay

かいさくしゃ
改作者: Mary-Anne S.

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

しゅつぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2010 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、
また きよか
又はプリントは、許可されています。



むかし

な

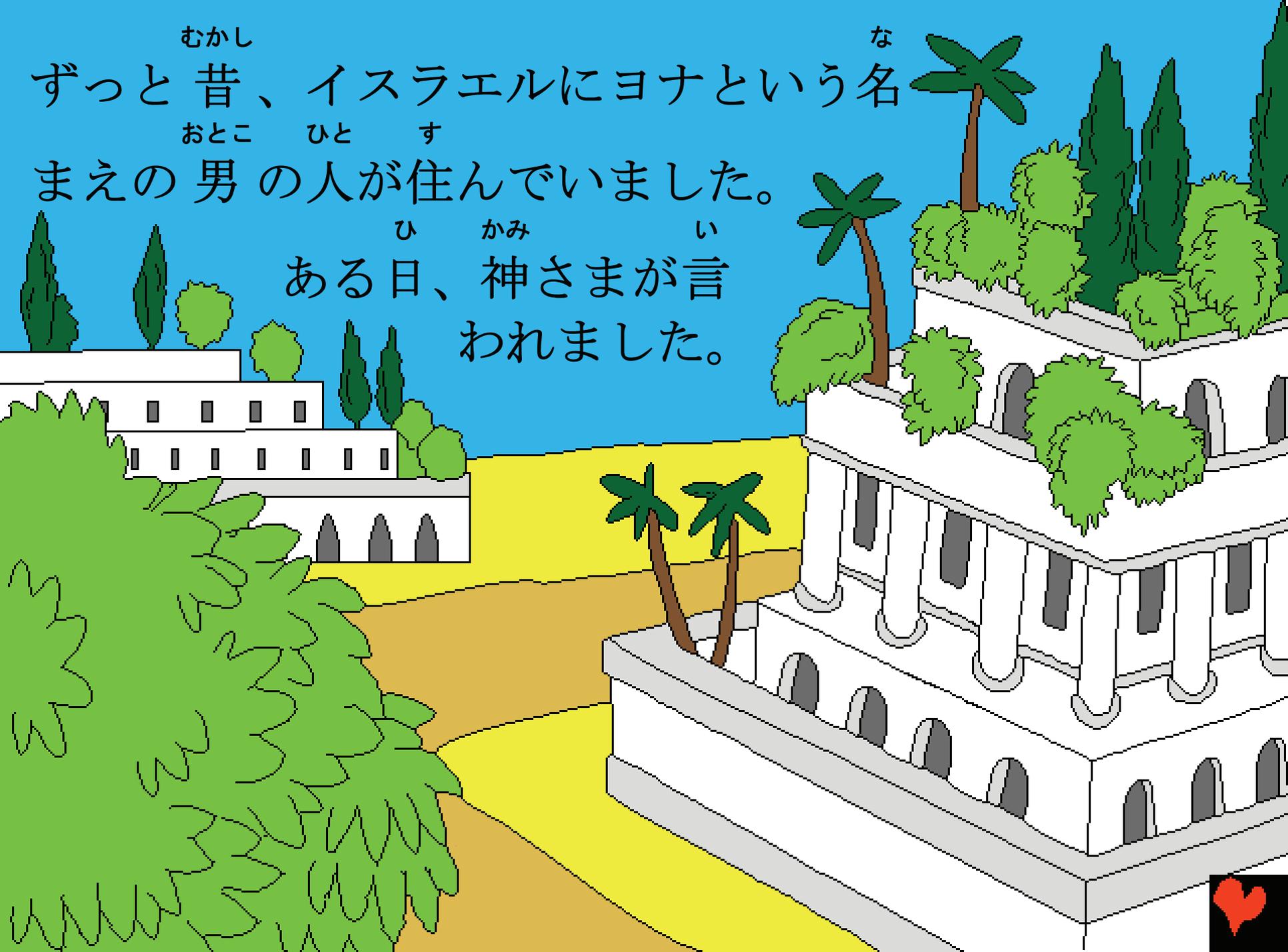
ずっと昔、イスラエルにヨナという名

おとこ ひと す

まえの男の人が住んでいました。

ひ かみ い

ある日、神さまが言
われました。



「ヨナ、ニネベへ行きなさい。」
ニネベというところは、そのころ

せかいじゅう

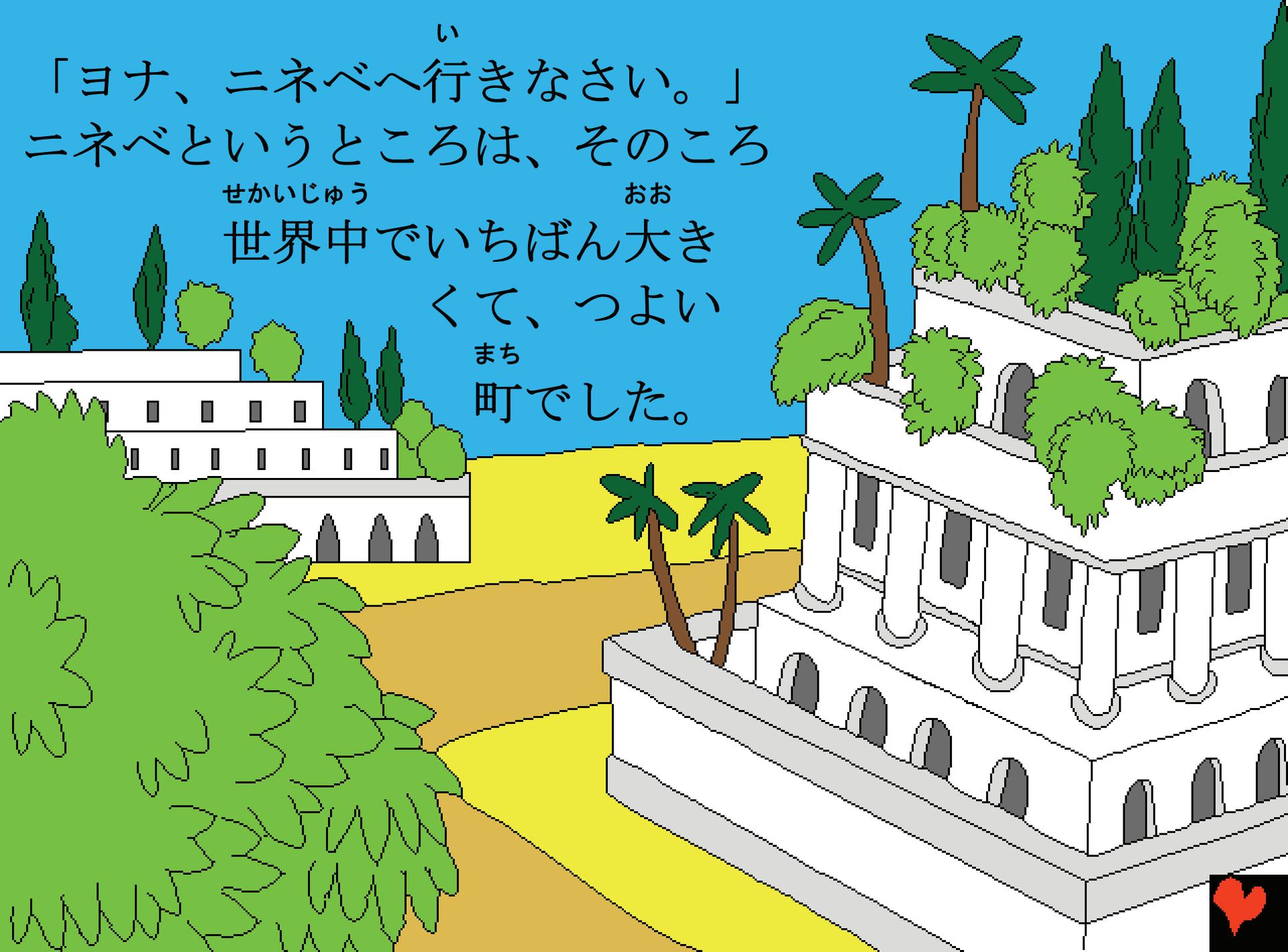
おお

世界中でいちばん大き

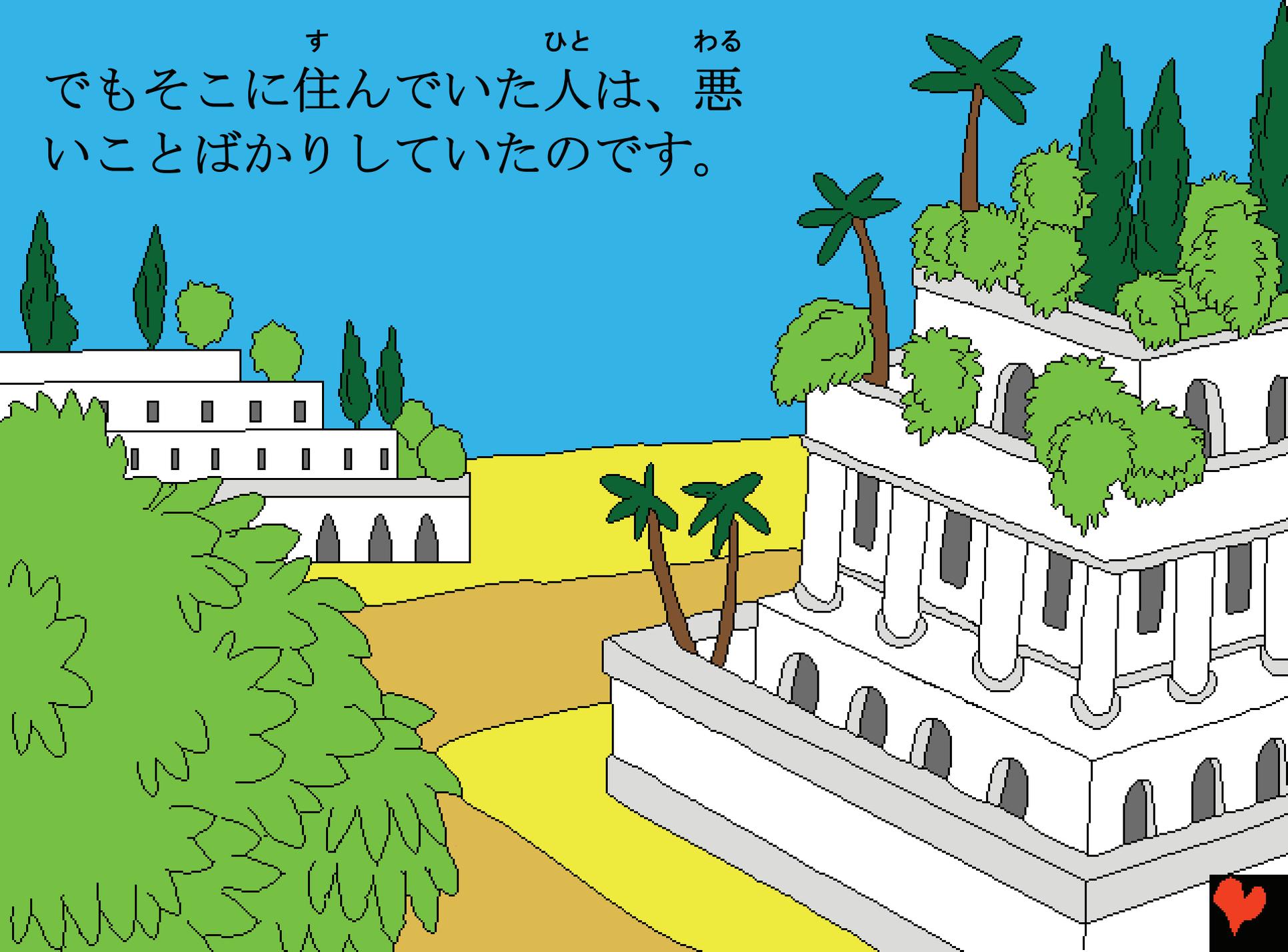
くて、つよい

まち

町でした。



す ひと わる
でもそこに住んでいた人は、悪いことばかりしていたのです。



かみ

そこで、神さまはヨナに、「ニネベの

ひとびと

わる

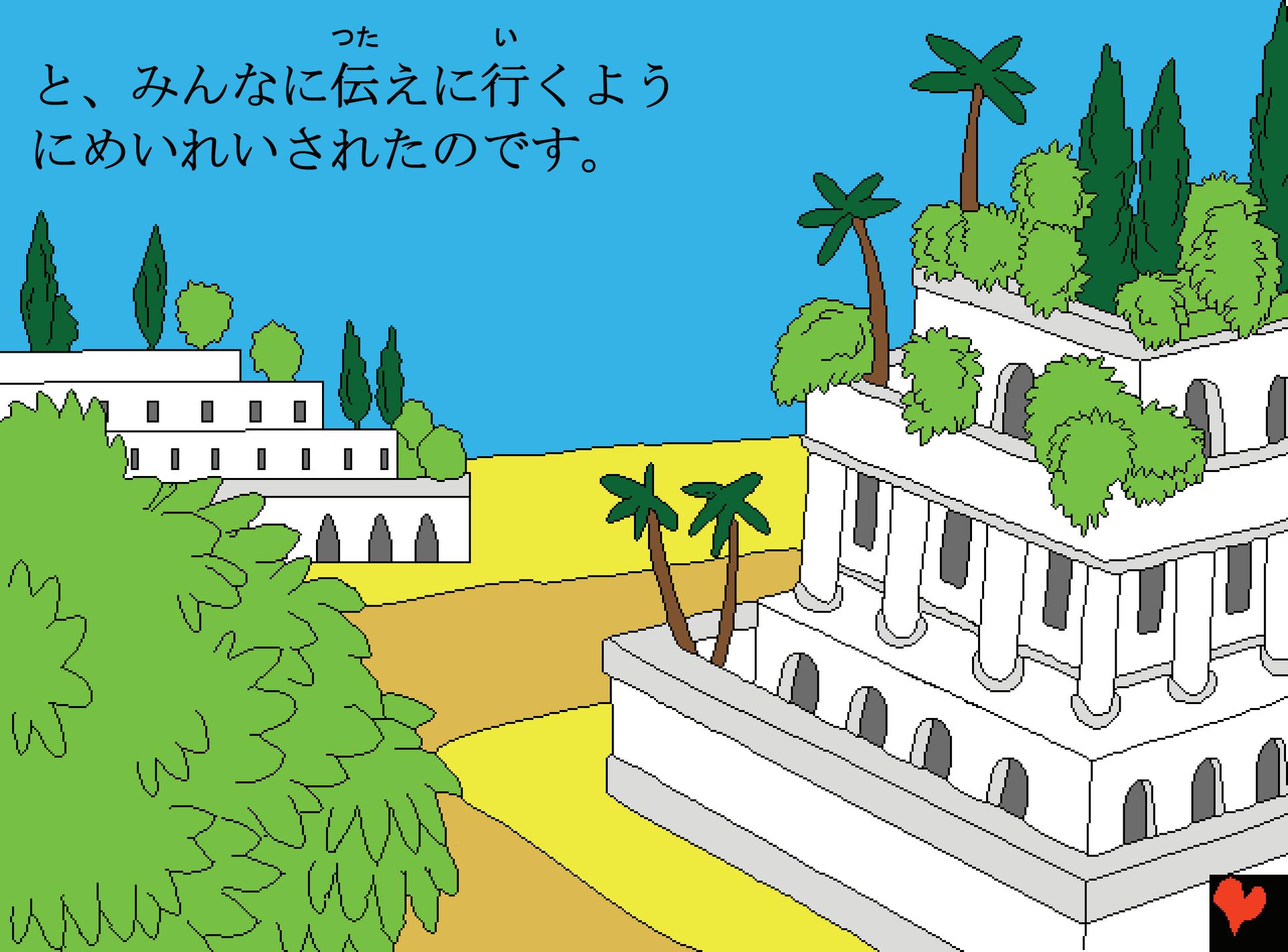
人々がどんなに悪いことをしてい

るか、ちゃんとわかっ

ているのですよ。」

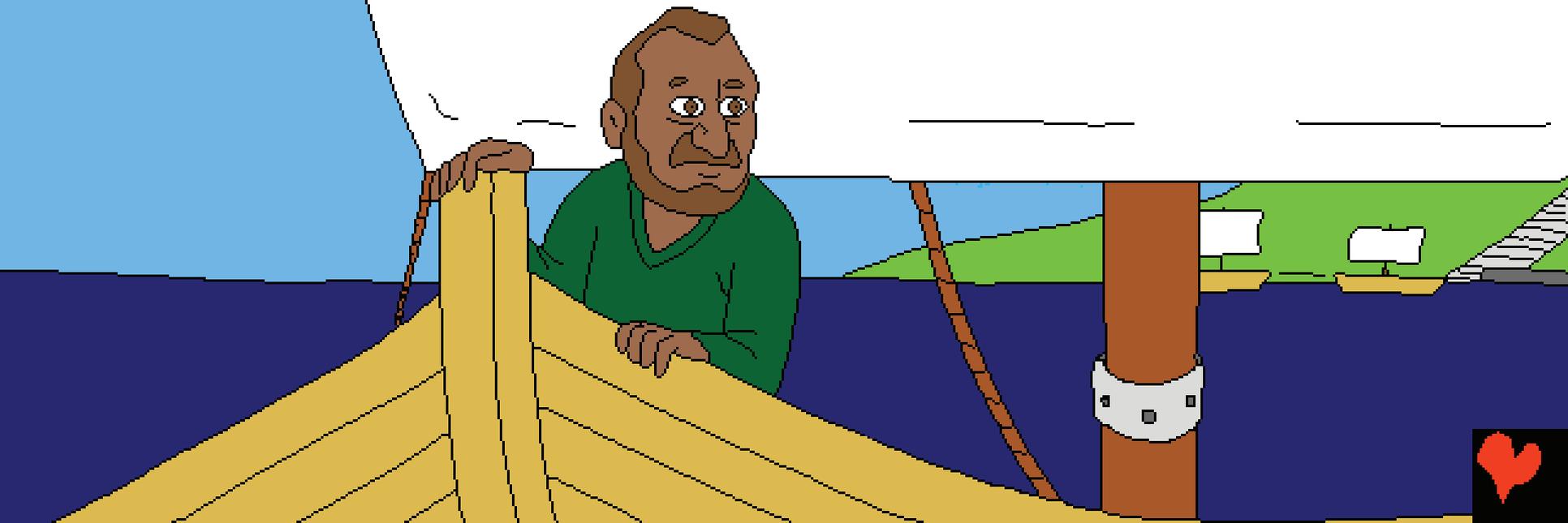


つた い
と、みんなに伝えに行くよう
にめいれいされたのです。



かみ
ところが、ヨナは神さまのおっし
やるとおりにしなかったのです。

い
ニネベへ行くかわりに、
ふね はんたい ほう
船にのって反対の方、
タルシシュにむかいました。



しゅ

かみ

うみ

かぜ

おく

そこで主なる神さまは、海につよいつよい風を送られました。さあ、たいへん！ひどいあらしです。

おお

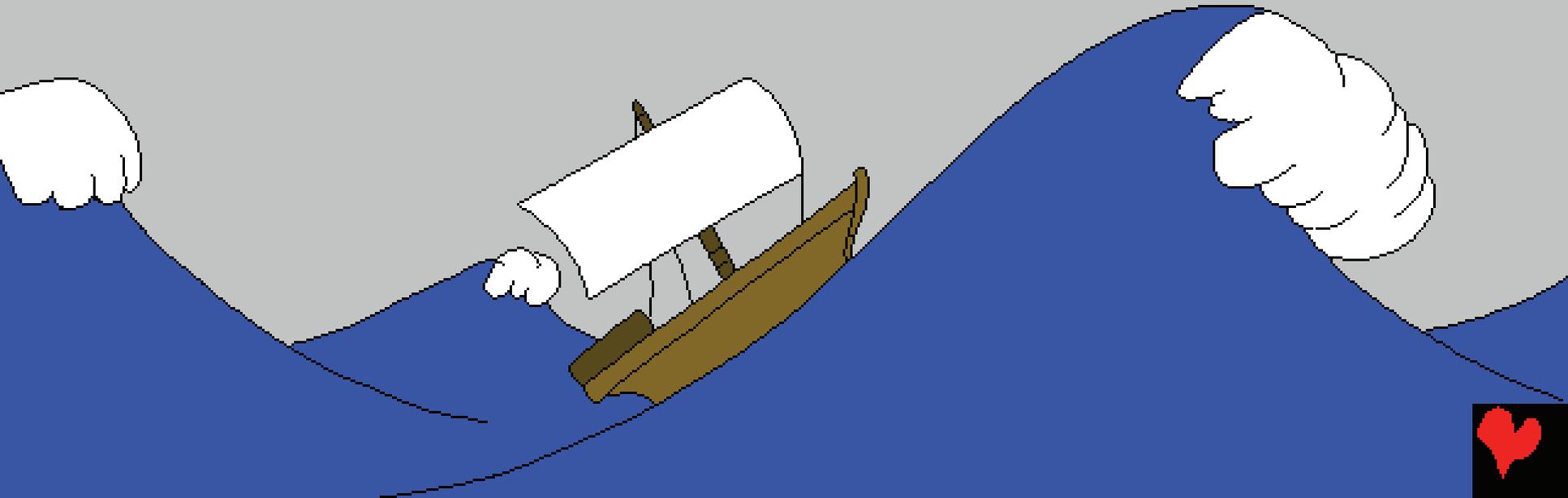
なみ

ふね

ざぶーん、ざぶーんと大きな波が船におおいかぶさってきます。

ふね

「ああ、どうしよう！船がバラバラになってしまおう！」^{ふな}船のりたちは、さけびました。



あらしは、だんだんひどくなっていきます。

ふな

船のりたちは、おそろしくてたまりません。

かみ

「神さま、

たす

どうか助けてください。」

いの

って祈りました。



ふね

船をかるくしようと、

に

うみ

荷もつをみんな海になげこみました。けれども、

あらしはますますひどくなり、

ふね

もうすぐ船はしずみそうです。



あれっ、ひとりだけ祈っていない人がいますよ。その

人は、ヨナです。ヨナは祈るかわりに、船のそこで

グーグーねむっているようです。船長が、ヨナを
みつけました。「こんなところで、
あなたはなにをしているのですか。

いまごろ眠って
いるなんて！

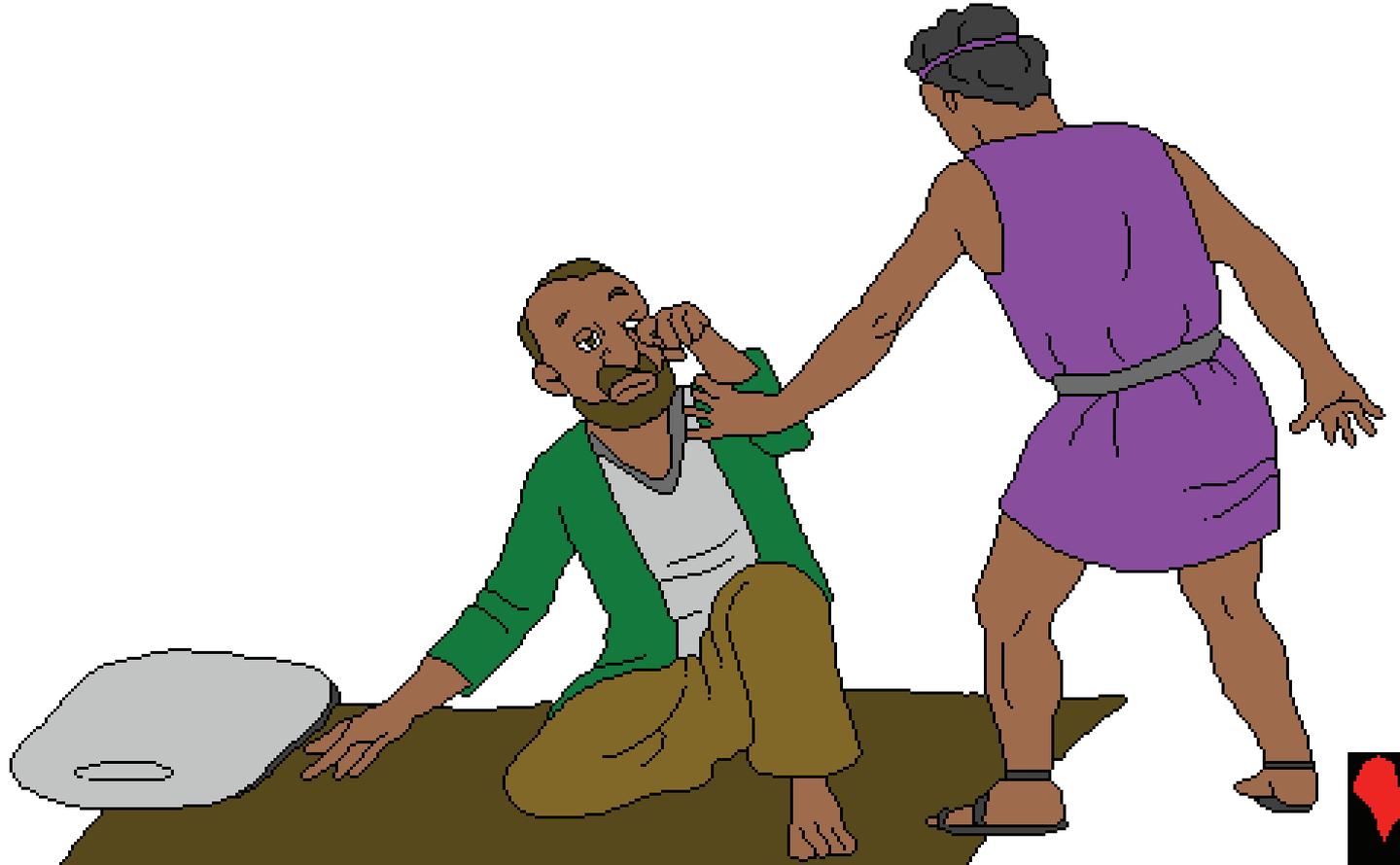


お いの かみ

さあ、すぐ起きて祈ってください！神さまは、

たす

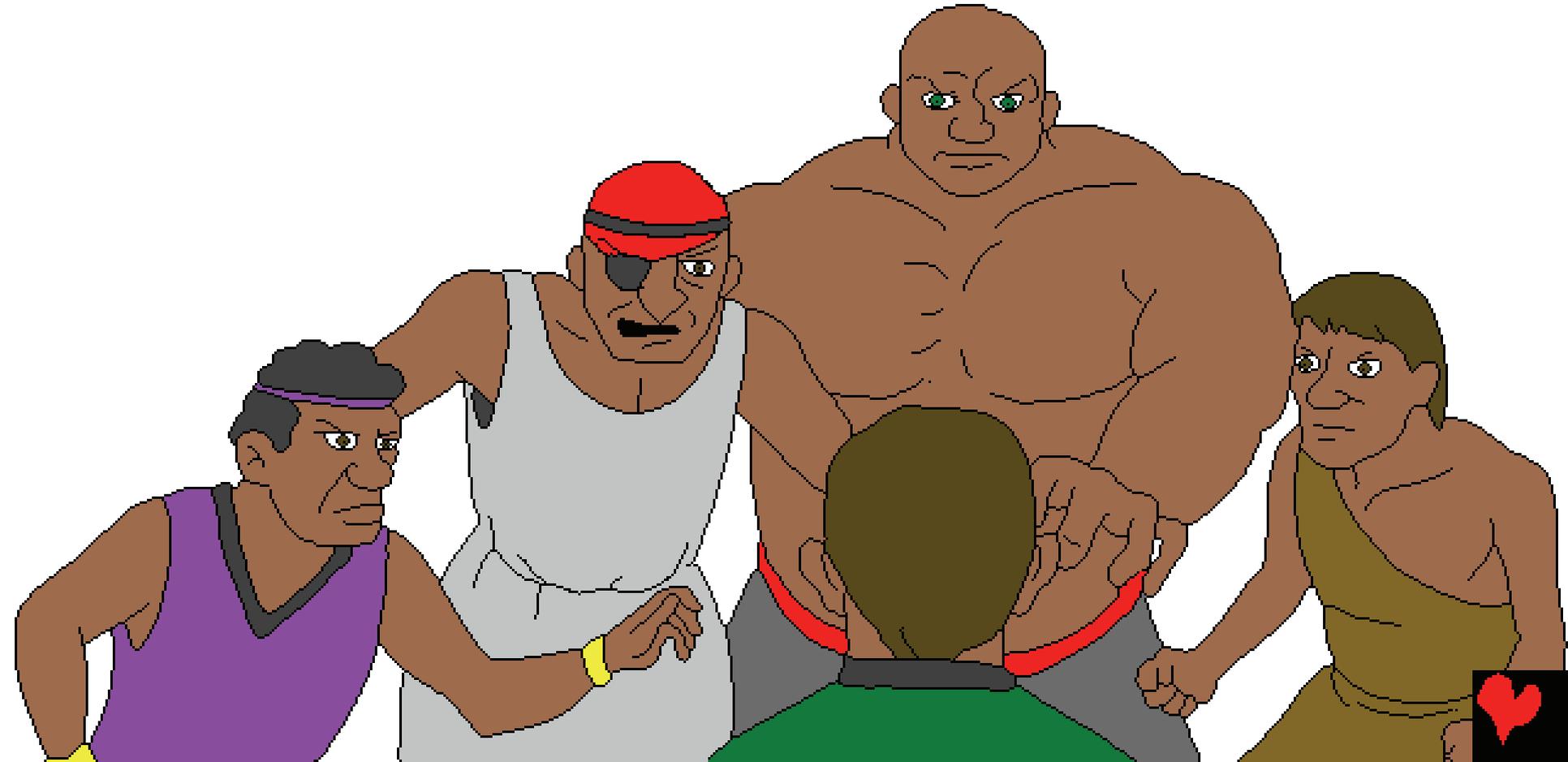
助けてくださるかもしれないのです。」



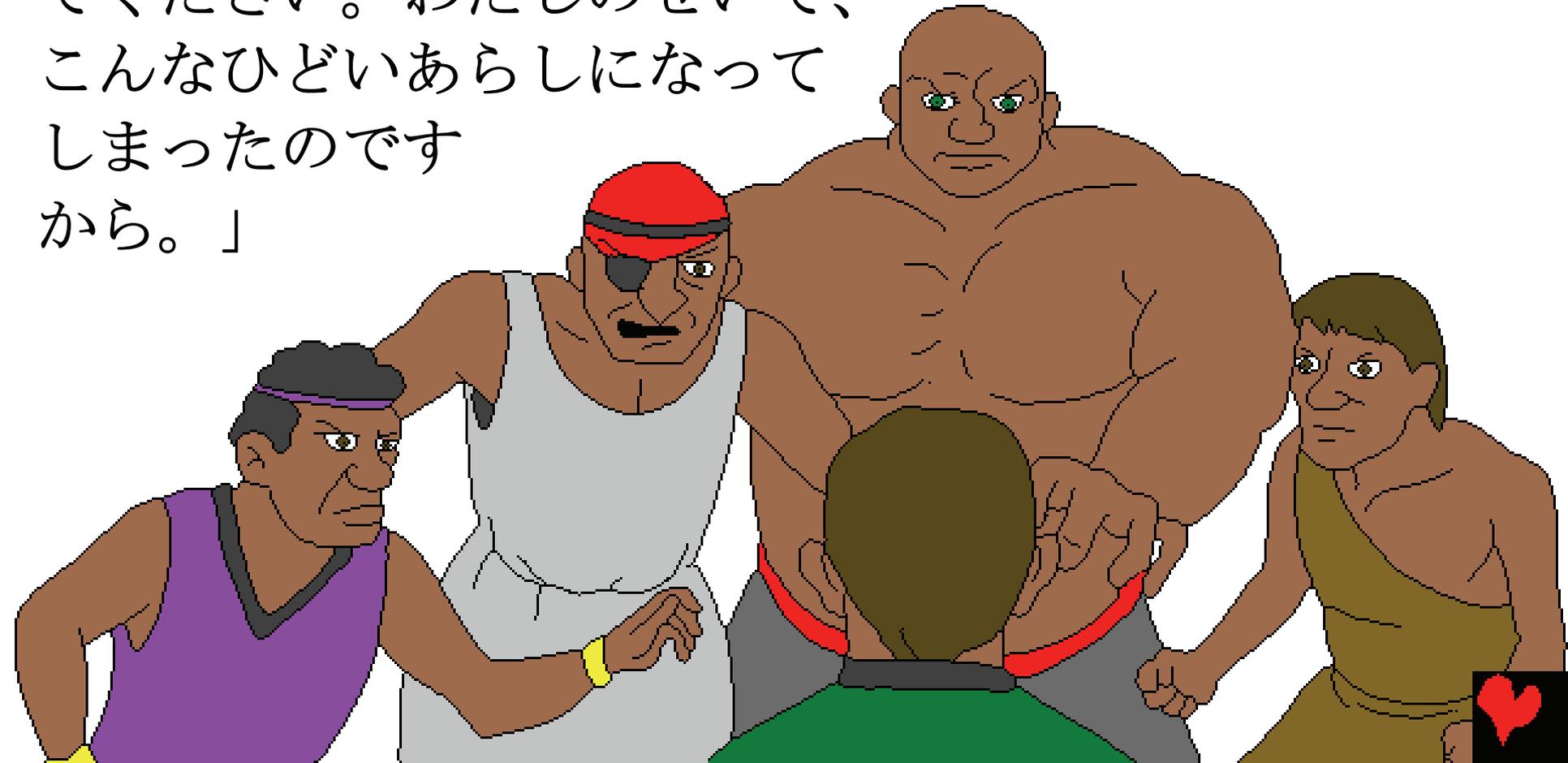
ふな

おも

そのとき、船のりたちはこう思いましたよ。
こんなひどいことになったのは、
ヨナのせいにはちがいないって。



「おれたちは、いったいあなたをどのようにすればいいのだ。この海^{うみ}のあらしがしずまるようになるためには。」ヨナはこたえました。「わたしを海^{うみ}になげこんでください。わたしのせいで、こんなひどいあらしになってしまったのですから。」



ふな
船のりたちは、ヨナを
うみ

海になげこみたくあ
りません。そこで、
みんなはいっしょう

ふね

けんめい船をこぎ
ました。「さあ、

ふね

きし

船をこいで岸ま
でいくんだ。」



けれども、こいでもこい
きし
でも岸までたどりつ
きません。さて、
どうすればいい
のでしょうか。

たす
助かるほうほうは、
ただひとつしか
ありませんね。



かみ
「神さま、どうぞおゆるし
ください。」

ふな
船のりたちは、

いの
こう祈ってか

あ
らヨナをもち上げ、

うみ なか
海の中になげこみました。

おお なみ なか
ヨナが大きな波の中にき
えてしまったとたん、
どうでしょう。



うみ

海はとたんにしずかになり、

かぜ

風はやんでしましました。

ふな

船のりたちは、

か

このとつぜん変わった

てんき み

天気を見てすっかりこわく
なっていました。



「なぜ、とつぜんあらしがやんでしまっ
たのだろう。」

それは、
ひどいあら
しよりも、
もっともっとおそろし

おも
いことのように思えました。

ふな
船のりたちは、

いま
今はっきりとわか
ったでしょう。



このようなことがおできになるのは、

かみ

神さましか
いらっしや
らないって。
かれらは、

このふしぎなできご

こころ

とに心からおどろいて、

かみ

神さまをおそれなが

れいはい

ら礼拝しました。



かみ

さて、神さまのいうとおりにした
がわなかったヨナは、

うみ

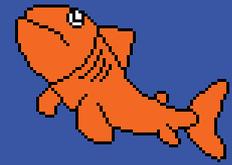
とつぜん海になげこ
まれ、ほんとうにびっ
くりしたことでしょう。

うみ

ヨナは、ふかい海の

なか

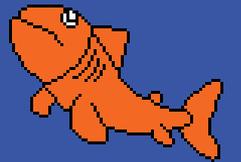
中へしずんでいき
ましたよ。でも、
どうすることも
できません。



ヨナは、^{じぶん}自分がおぼれて^し死んでし

まうだろ^{おも}うって思い
ました。でもね、

^{かみ}神さまはヨナに、
^{けいかく}ほかのことを計画さ
れていたのです。



しゅ おお おお さかな ようい
主は、ヨナをのみこむような大きい大きい魚を用意さ

されていたのです。その魚はね、ちょう

どそのとき、その船の下にいました。

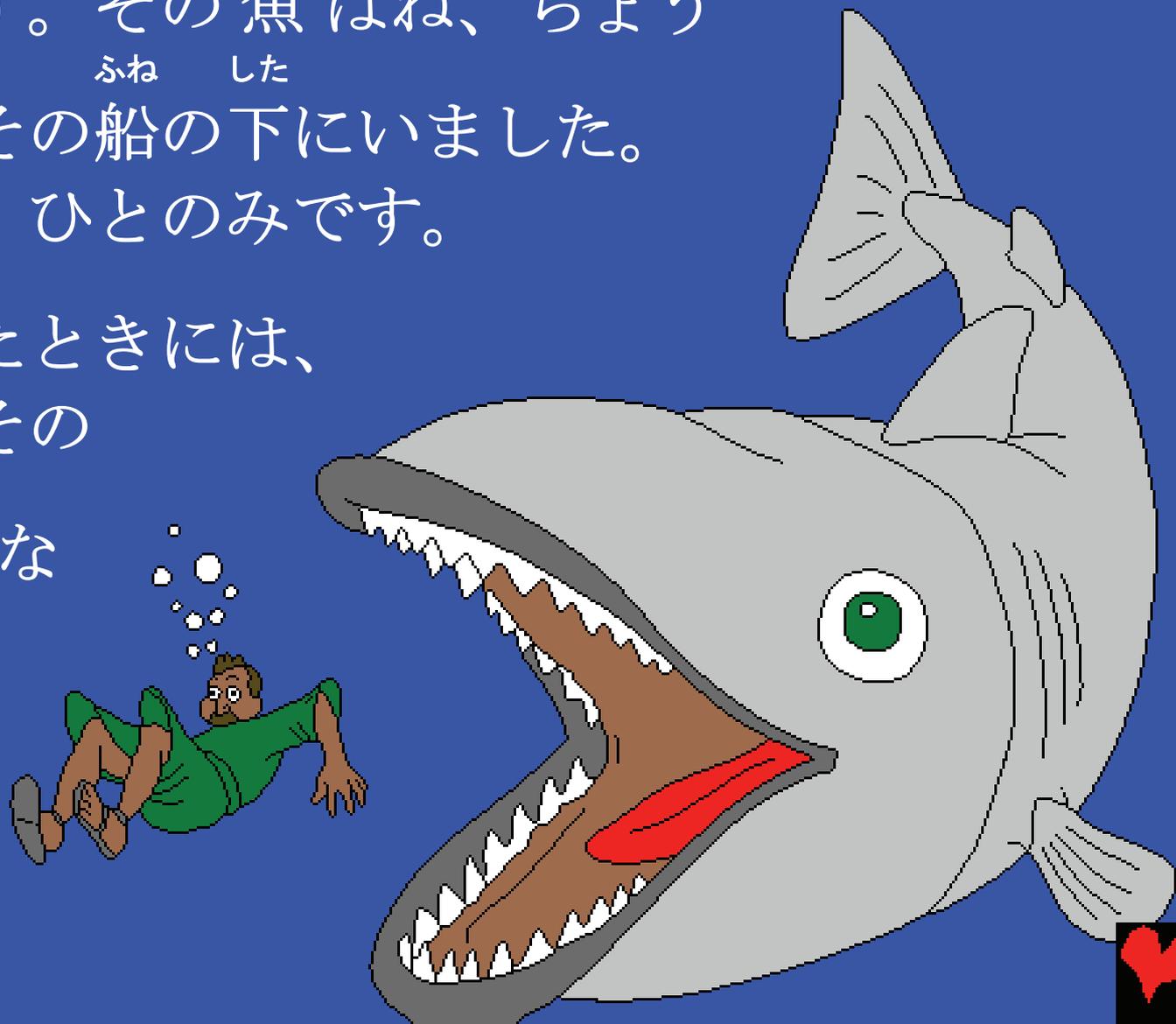
“がぶっ”と、ひとのみです。

あれっと思ったときには、

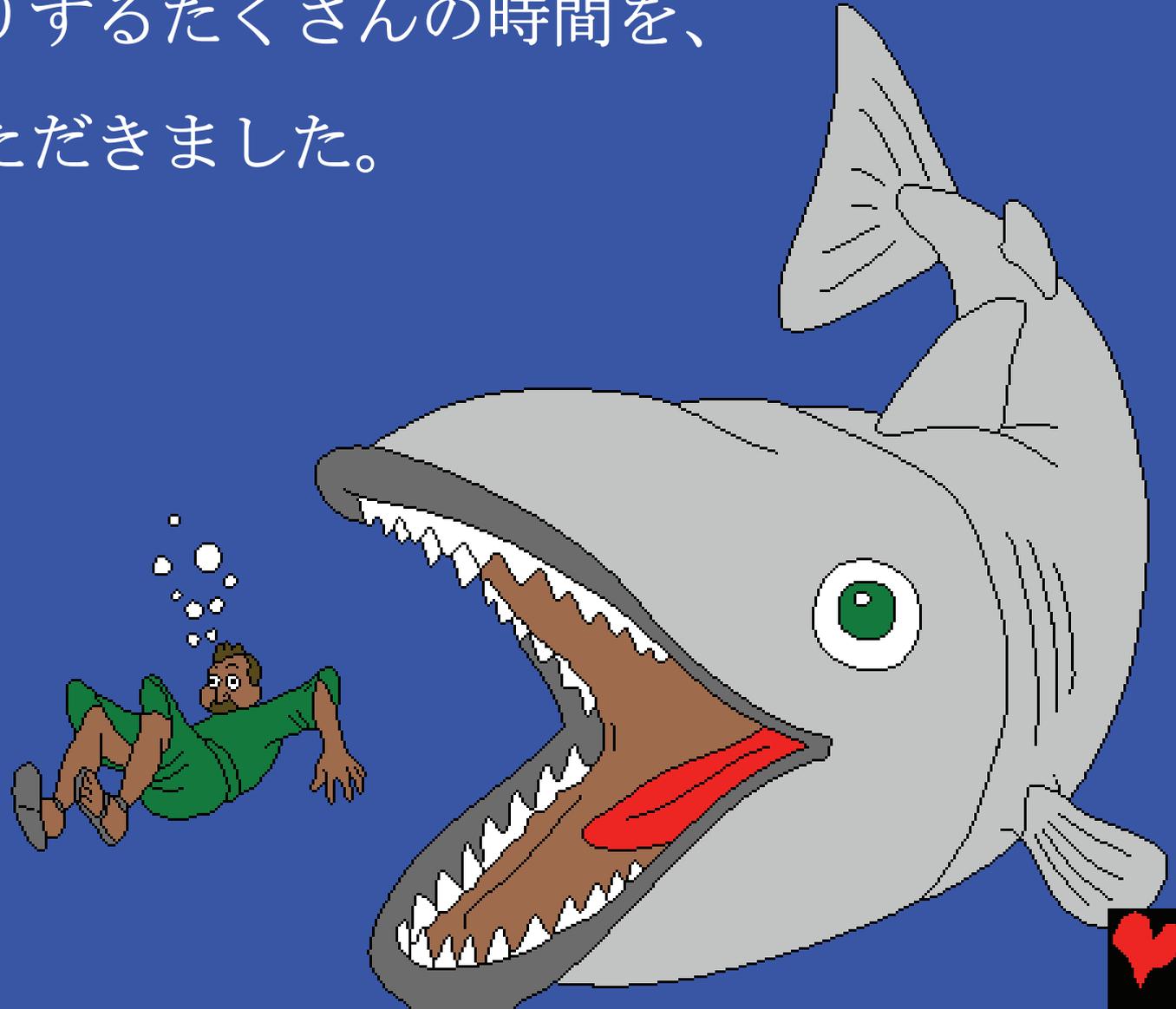
もうヨナは、その

大きい魚のおな

かの中ですよ。



それから3日も魚のおなかの中にいたヨナは、祈った
りかんがえたりするたくさんの時間を、
神さまからいただきました。



みっかめ

かみ

い

ちょうど3日目です。「これからは神さまの言われる
こころ

とおりにしよう！」と、ヨナは、やっと心にきめました。

かみ

さかな い

た。するとどうでしょう。神さまは、すぐに魚に言われました。



なか

「さあ、おなかの中のものを、

^{すな} ^は 砂はまに吐きだしなさい。」そして、

^{すな} ヨナは砂はまにうちあげられたのです。



かみ
神さまはヨナにまた、^{まえ}前とおなじことを言わ
^{まち}れました。「ヨナ、ニネベの町へ行き、
^{つた}わたしのことばを伝えなさい。」



こんどは、ヨナはどうしたでしょう。

い

もちろん、すぐに行きました。

にち

まち

「40日のうちに、この町はなくな
ってしまおうだろう。」

った

と伝えましたよ。



ひとびと かみ

ニネベの人々は、神さまのことばを信じました。

ひとびと た めの き
人々は、食べることをやめて、あらい布のふくを着

かみ かみ
て、神さまにあやまりました。「神さま、
ごめんなさい。わたしたちは、

かみ
神さまにしたがわな
わる
いで悪いことばかり
していました。」



おう かみ さ おう
王さまも神さまに、あたまを下げました。王さまは、
おう たか くらい
王さまだけがすわれる高い位のイスからおりて、あら
ぬの き はい なか
い布のふくを着て、灰の中にすわりました。それから
ら、みんなにめいれいしました。「さあ、みんな、も
わる
う悪いことはやめるんだ。

あらそ
争ってはいけない。
しゅ
そして主にゆるしてく

いの
ださいって祈る
んだ。」



かみ

神さまは、ほんとうにみんなをゆるしてく
ださったのですよ！
なんてうれしいこ
とでしょう。



かみ

神さまがゆるしてくださったと知ったニネベ

し

ひとひと

おお

の人々は、大よろこび。・・・でもね、

ひとりだけお

ひと

こっている人

がいますよ。

その人はだれ？



ヨナだったのです。



どうして、ヨナはおこっているのでしょうか。

ヨナは、神さまに言いました。「神さま、

わたしは神さまが、めぐみぶかく、

なさけぶかく、すぐに怒られる
ことはなく、しんせつでやさ

しい方ということを知って
おります。」つまりね、

ヨナはわたしたちが悪いこ

とをしても、「神さま、
ごめんなさい。」



い
かみ
と言って、神さまのことばにしたがうようになれば、
かみ
神さまはいつもゆるしてくださることを、

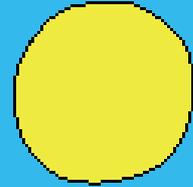
し
知っていたのです。でも、ヨナは
ひとびと す
きっとニネベの人々が好きじ
やなかったのでしょうね。

かみ
だから、神さまがニネベ
ひとびと
の人々をすぐにゆるされる
のは、いやだったのです。



ヨナは、神さまにとてもおこって、こう言いました。

「神さま、わたしの命を、さっさと取って
しまってください。生きているより、
死んだほうがましです。」



まち そと で

かみ

それから、ヨナは町の外に出ていき、つぎに神さま

じぶん なに

おも

が、いったい自分に何をなさるのだらうと想着ていま

しゅ かみ

おお

した。主なる神さまはね、大きなは

き ようい

っぱのついた木を用意されましたよ。

き

おお

その木はあっというまに大きく

こ

なり、その木かげが、ヨナをあ

ひ

ひかり

ついお日さまの光から

いちにちじゅう

一日中まもってくれ

ました。



ところが、つぎの日のあさです。神さまは、木に1び
きの虫をつかせました。あれっ、クネクネうごいてい
ますよ。うじ虫それともいも虫？その虫はね、
あつという間にはっぱを食べつくしてしまい、
その木はかれてしまったのです。



しゅ

かぜ

それから主は、あつくてつよいつよい風をおくら

し

おも

れました。ヨナは死んでしまおうと思うほどでした。

かみ

それでヨナは、ますます神さまに、おこりました。



かみ

い

そこで神さまは、ヨナに言われましたよ。

「ヨナ、おまえがわたしにおこって

ただ

いるのは、正しいことなのか。





おまえはとうごまの木が死んでしまい、
かわいそうだと思っ^{おも}たことだろう。
だが、よくかんがえてごらん、
その木は、^き

おまえがはたら^{そだ}
いて育てたわけ
じゃないんだよ。



き

おお

その木は、ひとばんで大きくなり、

し

ひとばんで死んでしまった。

それじゃ、どうしてわたしが、

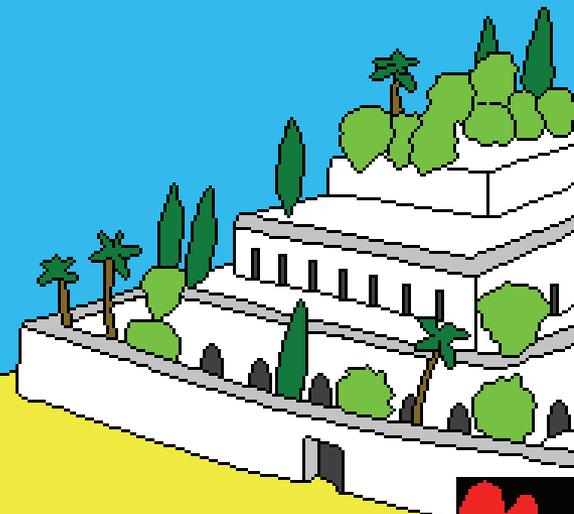
ひとひと

ニネベの人々を

おも

かわいそうと思っ

てはいけないのか。



まち

どうしてって、そのすばらしい町ニ

なんぜんにん ひと

ネベには、何千人もの人がす
んでいるんだよ、ヨナ。」



おお さかな
ヨナと大きな魚

かみ み せいしよ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

しよ
ヨナ書

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに
かみ かみ
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを
おも
しってほしいと、思っています。

かみ わたし
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい
かみ つみ つみ
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の
し かみ あい
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい
ひとり こ よ おく
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って
つみ じゅうじかじょう な
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ
てんごく
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい
しん
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください
いま ところ き なか
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に
す い
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生
きるができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし
て生きることが出来ますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

